

「たくましく 未来を築く ウトロの子」

～「ふるさと知床学習」を通して、ふるさと「ウトロ」を誇りに思う児童生徒の育成～

学校名 斜里町立知床ウトロ学校

校長 小野 寺 哲 浩

担当者 渡 邊 圭

1. 活動の趣旨

本校は、「たくましく 未来を築く ウトロの子」を学校の総括目標として、その実現のために、「学びを創る」、「心と身体を鍛える」、「郷土を拓く」の3つの柱をテーマに教育活動を実践している。特に、「総合的な学習の時間」（1・2年生は「生活科」）においては、探究の過程を踏まえた「ふるさと知床学習」を位置付け、児童生徒が地域の自然や環境・産業・歴史に関心を持ち、主体的な活動を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指している。

2. 活動計画

	「ふるさと知床学習」のテーマ	目 標
1年生	「身近な人々と自然」	動植物の観察や地域の施設・人々に関する学習を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。
2年生	「身近な人々と町」	
3年生	「知床の自然」	地域の自然や生活、歴史について探究する学習を通して、粘り強く課題を解決していくための資質・能力を育成する。
4年生	「知床の生活・歴史」	
5年生	「知床の人々と産業」	地域の人々や産業、歴史などについて探究する学習を通して、習得した知識・技能を働かせながら課題を解決していくための資質・能力を育成する。
6年生	「ウトロの共生」	
7年生	「知床の共生」	
8年生	「世界から見た自分たち」	世界自然遺産や将来への展望などについて探究する学習を通して、社会や自然との関わりにおいて自らの生活や行動を考えるための資質・能力を育成する。
9年生	「知床の未来をつくろう」	

3. 活動事例

① ふるさとの産業（5年生ほか）

ウトロは、観光・農業・漁業が主な産業となっている。それぞれの産業の現状や課題について、ゲストティーチャーの話や体験、資料等から学び、それを解決するための方法について考え、まとめた。新型コロナウイルス感染拡大で活動が制限される中、漁協や地元漁師の協力を得て船上の様子を撮影していただく等、伝統的に行われている学習活動を実現可能な範囲で行えるよう工夫した。



② 多様な文化に触れる（6・7年生ほか）

ホテルの従業員として、多様な国籍の方が働いているため、ゲストティーチャーとして日本との相違点について話をさせていただき、自分たちが調べたことと合わせてまとめを行った。また、ウトロに遺跡のあるオホーツク文化や、アイヌ文化についても学習している。地域に住むアイヌの方に子供のころの話をさせていただいた。また、6年生の修学旅行では、白糠で楽器の演奏や舞踊の体験を行った。



③ 発信活動（9年生ほか）

昨年は、未来の知床について、修学旅行先の千歳市のまちライブラリーで生徒が主催するWSをおこなった。今年度は、同じユネスコスクールである知床未来中学校との交流をおこなうことができた。



4. 成果と課題

- 地域の豊富な教育資源を活用し、系統的に、総合的な学習を中心に、ESDを展開することができた。
- コロナ禍により9年生の修学旅行で実施予定であった交流活動が著しく制限されたが、ユネスコスクールのつながりをいかし、知床未来中学校との交流ができた。
- 系統化ができすぎているために、児童生徒の主体性をどのように引き出すかが課題。